



TITLE:

京都外科集談会第363回例会

AUTHOR(S):

CITATION:

京都外科集談会第363回例会. 日本外科宝函 1960, 29(2): 692-693

ISSUE DATE:

1960-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/207070>

RIGHT:

京都外科集談会第363回例会

昭和35年1月28日

(1) Angiosarcoma を思わせた下肢の

Haemangioma cavernosum の1例

外科Ⅰ 吉田 耕造・工藤 昂

臨床的にその急速な増大より血管肉腫と診断し、試験切除に依り組織学的に良性な海綿状血管腫と判明、下腿切断術を見合わせ、腫瘍の摘出とレントゲン治療に依り治癒せしめ得た症例を経験した事を報告し、この腫瘍が短期間に急速に増大した原因について多少の考按を加えた。

(2) 胃癌根治手術に対するCo⁶⁰照射療法併用に就て

松阪市民病院

吉武泰男・吉見博夫・島田喜一郎

吾々は胃癌根治手術に際して癌細胞撒布に因る局所再発の防止にCo⁶⁰遠隔大量照射の術前或は術後の併用を試みて居るが、其の効果を検討するに当り、先ず主として原発巣に対する影響を2100_r～5100_r迄の術前照射を行った胃癌6例と、6100_r照射した乳癌1例を参考とし組織学的に検討して見た。

其の結果組織変化を癌細胞に対する直接作用及び結合織に対して作用し癌細胞を死滅すると思はれる間接作用更に血行障害によつて生じたと思はれる組織壊死による作用の3種に於て見る事が出来た。個々の癌細胞に於ては何れも異型化、核中空胞の出現、膨化、崩壊等の変化を含め癌細胞の生活力の低下を思わしむるものがあつて、之等が癌細胞撒布による局所再発の防止に役立つものと思はれる。

臨床的には根治手術の17例と姑息手術の5例に術前、術後照射を試みたが、遠隔成績は未だ不明であるが或る程度有効であると思はれる。

(3) 右心房異常拡大によると思われる機能的三尖弁不全症の1例について

外科Ⅱ 久山 健

小児科 和田 理

右心房異常拡大によると思われる機能的三尖弁不全症の1例を経験し、診断と病因について考察を試みた。

(4) Pheochromocytoma の2例

外科Ⅱ 久山 健・大谷 博・丸山 泉

内科Ⅱ 永浜 勤

最近続いてPheochromocytomaの2例を経験したので報告した。

症例1) 24才、女子。典型的な発作性の高血圧症を呈し、術前診断をつけ、手術により左腎上極に存在した手拳大の腫瘍を摘出し、全治した。その手術時の経験から、腫瘍剔出時に予想される血圧動揺に対して十分な管理の必要なことを述べた。

症例2) 47才、男子。主訴は腹部腫瘍。術前高血圧症を示さず、手術によりParaganglionから発生した手拳大の腫瘍を摘出し、全治せしめたが、剔出標本はその中央部が壊死軟化し、これが腫瘍活性の低下を来したものと考えられる。本例は統計的にも褐色細胞腫中、高血圧を呈しない10%の中に入るものとする。

(5) 典型的痛風症の1例

播磨病院外科 中山 剛・森 裕資

65才、男。副食は肉類を主とし、野菜を全く摂らず。30数年前右第1趾趾関節を打撲。その後ひきつづき痛み、加うるに10年前より諸々の関節の痛性腫脹及び疼痛発作を繰返すようになり、次いで手足の小関節の変形、運動障害を来すようになった。両側第1趾趾関節の高度腫脹。左第4、5趾、左拇指の潰瘍形成、白色膿汁排泄、右拇指、示指、腕関節、両側膝関節の疼痛性腫脹及び運動障害、右肩胛関節、左肘関節疼痛を主訴とし、それら手足小骨に円形、橢円形の骨破壊、骨膜肥厚、骨新生像、関節癒着、不全脱臼、病的骨折等を見る外、尿酸塩沈着部には稍々暗い影像を認め、且つ左尺骨々頭、左鎖骨、右距骨に骨増殖像を認める外、両耳朶及び足趾、指先掌側皮下に粟粒大より豌豆大の白垩様物質の沈着あり、腎臓に於て高度の萎縮腎を証明。右拇趾切断術に際して趾趾関節周囲より剔出せる大量の白垩様物質はMurexid反応(+)、組織顕鏡にて針状結晶を認めた。血清尿酸6.25mg/dl、尿中尿酸807.5mg/dl。嚴重な食餌制限(プリン含有物の)、諸種サリチル酸剤の内服及び注射、プレドニン関節腔内注射、副木固定、湿布等にて漸次軽快するもアトファンは副作用

用が強かつた。

- (6) 心マッサージにより蘇生した気管支喘息患者に対する京大改良型保生圏人工呼吸器の使用経験

外科Ⅱ 諏訪 正美・三木 成仁

53才、男子。3年来、気管支喘息にて、呼吸困難、咳嗽発作を訴えていたが、内科外来初診時、突然、ショック状態を来し、心停止す。直ちに開胸、心マッサージ施行。之を蘇生せしめた。チアノーゼ、自発的呼吸不十分のため、陽陰圧人工呼吸器を使用し、28時間生存可能ならしめた。病理解剖学的検索の結果、両肺全体に多数の Bulla を生じ、肺実質圧迫所見が認められた。成因として、本症例の如き、慢性気管支喘息患者の肺に於て、既に存在していた Bulla に、陽圧にて空気を送りこむ結果、Compliance 減少を来し、心衰弱に依る肺鬱血と相俟つて、Anoxia を招来したのではないかと考え得る。Bulla の存在を予想せしめた気管支喘息患者に対する京大改良型保生圏人工呼吸器の長所短所を示唆せしめた可成り稀にして貴重な症例であつた。

- (7) 厚生年金玉造整形外科病院に於ける整形外科機能訓練に就いて（其の1. 施設並びに訓練方法）

厚生年金玉造整形外科病院

大塚 哲也

本院に於ける整形外科機能訓練について、特にその施設及び訓練方式をスライドにより詳述した。整形外科機能訓練は一定の形式、方式にとられる事ではなく、各症例に応じ適宜各項目の開始時期、訓練時間及びその内容等の選択を行ない、各自に適応した訓練をその都度経過を追つて各個人ごとに指導し、又心理的には患者に訓練の方針及び内容を十分に理解させ、希望と熱意を持たせつつ、楽しく訓練を行わせる事が

必要と思われる。尚整形外科機能訓練の指導に当つては、心理的指導面とのきんみつな関連性を保ちつゝ行なう事が是非とも必要である。

質問 鶴見寛治

脊髄損傷による下半身麻痺患者で起立、歩行訓練をしたものが家庭或は職場で実際の程度まで訓練成果を活用しているものか？ この様な患者では上肢の訓練も重要と思う。

答 大塚哲也

骨折の社会的予後に関する実態調査の成績では、社会的の受入れ態勢の出来ているものは、社会復帰している（但しこれらは訓練をうけていない者である）。

本院では、34年10月から正式の訓練を行なつていたので、その訓練成果は今後にまたねばならない。併し現在では起立、歩行訓練のみならず上肢の訓練も充分に行つており又量の上の筋力練習も行ない、現在では歩行車、補助車、双杖いずれでも可能である。

質問 福田敏雄

Systematischに訓練を行う場合、患者の知能とか、やろうという意志等について年令的な限界は感ぜられませんか。

答 大塚哲也

1つの訓練の場合例えば音楽を聞かせ楽しく訓練出来る雰囲気をつくれれば、どの様な子供でも必ずついて来る。

- (8) 両側 Malgaine 骨折の1治験例

整形 佐藤 正泰

骨折としては稀な両側 Malgaine 骨折をキャンバス帯による骨盤の懸垂と下肢の Braun 氏架台上における重錘鋼線牽引を行ない、約14週間で治癒せしめたのでその経験について報告した。患者は13才の女子中学生であり、骨盤骨折に際し起る副損傷が認められない幸運な例で、安全地帯とトラックの後輪との間に挟まれて起こつたものであつた。